

4. 安全・安心な暮らしの実現

(1) 離島の生活を守る

① 離島生活の安定性向上

島民の生活交通手段、また、離島の物資輸送手段として離島生活の安定化を進めるため、離島および離島連絡港湾の静穏度の向上や、大型船の航行に対応した機能の強化を図ります。

(課題・要請)

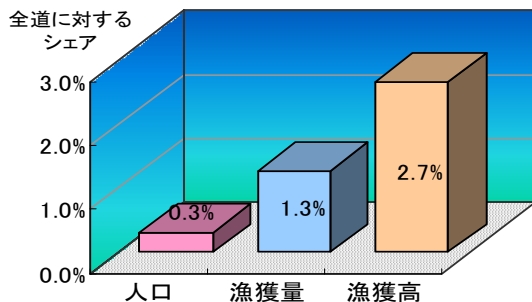
- ・離島航路は、島民の生活交通手段であるとともに物資輸送手段として機能しており、港湾の果たすべき役割は極めて大きいものがあります。
- ・離島の物価は本道より高く、輸送の安定化、効率化による価格差是正が大きな課題となっています。

② 離島産業の振興

離島の水産振興を支援する機能の強化を行ないます。
クルーズ船を利用した離島観光への対応など、機能の充実を図ります。

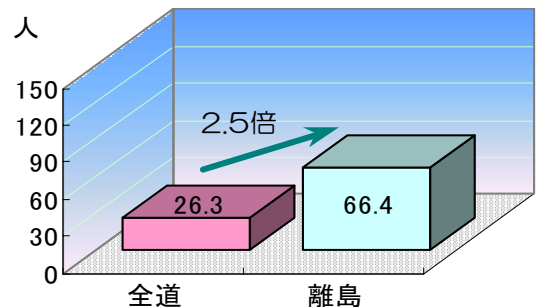
(課題・要請)

- ・離島経済は、主に観光、水産業に依存しており、これらの産業は北海道全体に占める割合も大きく、重要な役割を果たしています。



全道における離島の漁獲高のシェア

出典:人口はH12国勢調査をもとに作成
漁獲は北海道水産現勢をもとに作成



離島の地域人口1人当たりの観光客入込数

出典:北海道観光入込客数調査
(北海道商工観光労働部)をもとに作成

③ 離島生活の安全確保

離島における災害時の緊急物資輸送は、港湾からの海上輸送に依存せざるを得ない状況にあることから、岸壁の耐震強化、緑地などの保管スペースの確保など、防災拠点としての強化を図ります。

(課題・要請)

- ・離島における災害時の緊急物資輸送は、港湾からの海上輸送に依存せざるを得ない状況にあります。

(2) 災害時の物流確保

北海道、さらには国内の産業・経済活動の維持の観点から、災害時の代替輸送ルート（リダンダンシー）を確保するため、道路や空港などの他の交通機関とも連携し、多様な物流ルートの強化を進めます。

ハード面の強化だけでなく、災害時の輸送機関相互の連絡体制についても強化を進めます。

(課題・要請)

- たとえば北海道の常時観測火山の1つである樽前山が噴火した場合は、その規模により陸上輸送ルートのみならず、北海道の約4割の貨物を取り扱う苫小牧港や新千歳空港も同時に利用できなくなることから、北海道・本州間の物流が壊滅的な影響を受けることが想定されます。



北回りルートと南回りルートのイメージ

(3) 自然災害に備える

① 地震災害に備える

災害時の緊急避難や緊急物資輸送に対応するため、耐震強化岸壁などを備えた臨海部防災拠点を背後人口や地形特性を考慮して拠点的に整備していきます。
岸壁の地震時の液状化対策を推進します。

(課題・要請)

- 地震により岸壁が被災した場合、救援物資の海上輸送が不可能となることはもちろんのこと、港湾を利用した物流活動も停止するため、市民生活や産業活動に大きな支障を来すことから、耐震強化岸壁の整備、液状化対策等を進めています。

② 津波災害に備える

過去に多くの津波災害を受けている北海道において、その被害を最小限にとどめるために防潮堤などの整備を進めます。
津波対策などについて、ITを活用した情報提供システムの導入を検討します。

(課題・要請)

- 古くはチリ地震、最近では北海道南西沖地震など北海道では大規模地震の発生に伴い、幾度となく津波による大きな被害を受けています。



津波防災ステーションイメージ

【用語メモ】

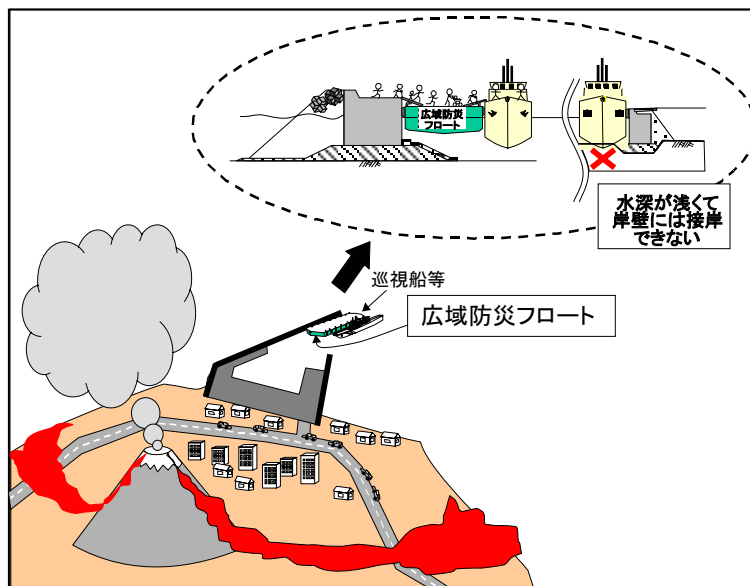
耐震強化岸壁：数百年に1度発生する地震でも壊れない強さの岸壁

③ 火山噴火などの災害に備える

災害発生後の復旧支援や緊急避難、移動式ヘリポートなどとして利用可能な広域防災フロートなどの整備およびその有効活用を進めます。

(課題・要請)

- ・平成 12 年の有珠山噴火の際には、前兆現象がはっきりしていたため噴火前の事前避難が可能でしたが、駒ヶ岳など他の火山も含め、今後の噴火に際しては、短時間での交通障害や地域の孤立などの可能性が指摘されています。



広域防災フロートのイメージ

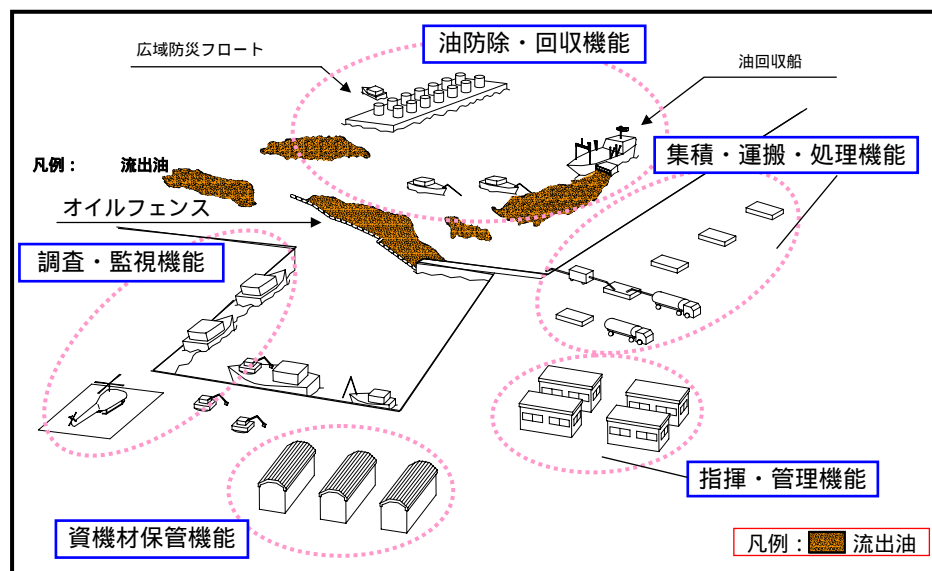
(4) 海上における災害・避難への対応

① 大規模油流出対策

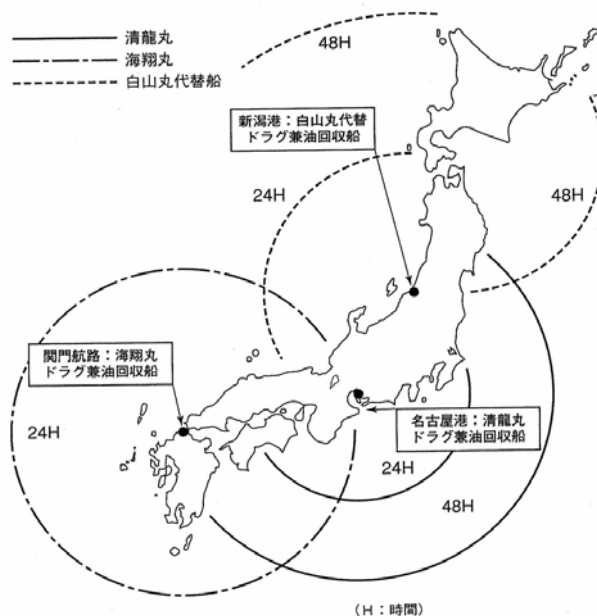
北海道沿岸部において、大規模油流出事故に備え、環境や経済活動等への影響を最小限にとどめるため、油回収船や資機材を配備した港湾の防災拠点の形成に向けて検討を進めます。

(課題・要請)

- ・ 近年、ナホトカ号など船舶の油流出事故が頻発しており、サハリンプロジェクト開始によりサハリンからの原油の輸送頻度が高まるため、北海道沿岸部での油汚染の危険度が高まっています。
- ・ オホーツク沿岸域は国内でも唯一、油回収船の48時間到達圏外となっています。



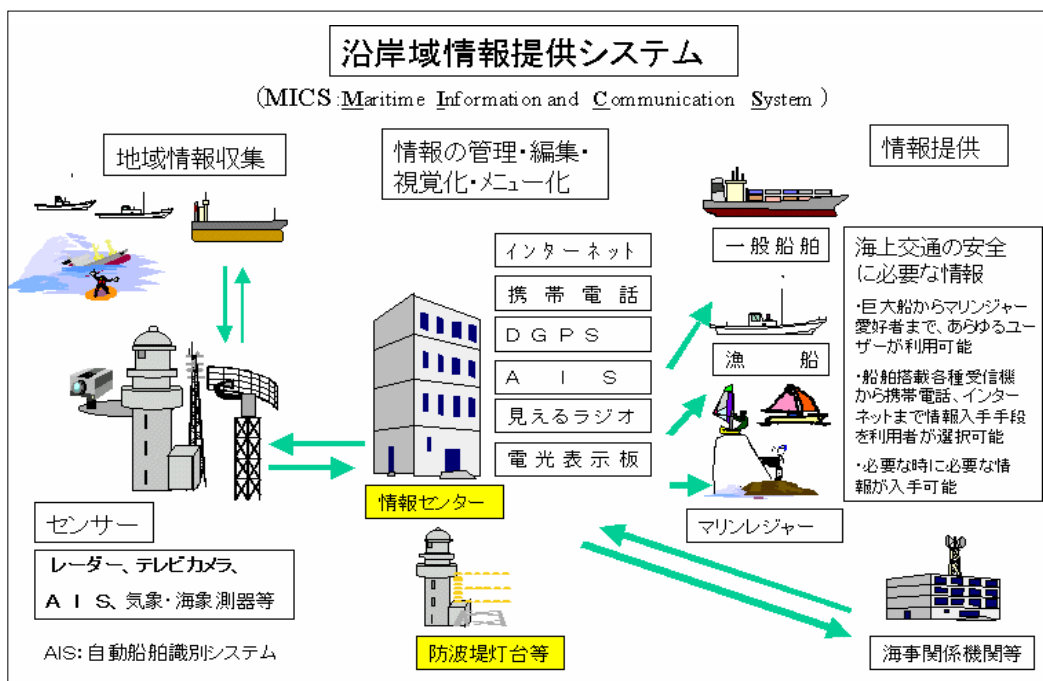
港湾における大規模油流出事故に対応した防災拠点化イメージ



油回収船の48時間圏

② 避難船対策

北海道近海を航行する船舶の安全を確保するため、避難泊地の整備を進めます。
船舶への設置が義務づけられる海のITS（AIS）を活用し、避難場所や気象・海象情報などを提供する情報システムを検討します。



海のITSを活用した情報提供のイメージ

【用語メモ】

海のITS：ITを活用した次世代の海上交通システム